

令和5年4月10日発行

演劇・映画の専門図書館

松竹大谷図書館ニューズレター

No. 301 (2023年4月)

■当館デジタルアーカイブを活用した歌舞伎座新開場10周年記念グッズ新発売！

2023年4月5日（水）より、松竹大谷図書館が所蔵する戦前の歌舞伎座筋書の表紙などをデザインに使用した歌舞伎座新開場10周年記念「歌舞伎座レトログッズ」が、歌舞伎座1階お土産処「木挽町」他で販売されております。

この記念グッズは、大正から昭和期に歌舞伎座で発行された松竹大谷図書館所蔵の歌舞伎座筋書の表紙をそのままデザインに生かしたノートやぼち袋などで、当館クラウドファンディングプロジェクトのご支援により公開した当館のデジタルアーカイブ「芝居番付検索閲覧システム」の画像データを活用して制作された商品が中心となっております。

当館では令和2(2020)年に「[【第9弾】演劇史を紐解く、歌舞伎座の絵本番付と筋書を後世へ。](#)」プロジェクトとして、戦前の歌舞伎座の筋書をデジタル化し、保存するためのクラウドファンディングを実施し、256名の方より325万円のご支援をいただきプロジェクトが成立しました。そして、立命館大学アート・リサーチセンターの協力のもと、筋書のデジタル撮影とアーカイブ構築、閲覧システムでの公開準備を進め、令和4(2022)年7月1日に「芝居番付検索閲覧システム」で公開を開始、戦前の歌舞伎座筋書の検索と全ページの閲覧ができるようになりました。

公開後は、Web上で上演調査や参考資料として活用できるようになったことから利便性が向上し、歌舞伎研究者や愛好家の方はもちろんのこと、デザイナーの方など、広く一般の方にも

デジタルアーカイブを利用していただく機会が増え、好評をいただいております。

今回、歌舞伎座新開場10周年という節目に、このように当館デジタルアーカイブを活用した記念グッズが発売されることにより、当館所蔵資料やデジタルアーカイブについてより多くの方に知っていただき、興味や親しみを持つ機会となつていただければと願っております。

当館では今後も貴重資料のデジタル化プロジェクトを進め、希少性や利用頻度の高いものから順次公開していく予定です。今後とも引き続きまして、当館の活動並びに貴重資料デジタル化プロジェクトにお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

▼松竹大谷図書館所蔵貴重資料デジタルアーカイブ「芝居番付検索閲覧システム」

https://www.dh-jac.net/db1/ban/search_shochiku.php



昭和15(1940)年4月歌舞伎座筋書表紙
(松竹大谷図書館デジタルアーカイブより)



ノート

目次:

当館デジタルアーカイブを活用した歌舞伎座新開場10周年記念グッズ新発売!	1
神奈川近代文学館特別展「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」に当館資料を展示提供しています	2
第96回所蔵資料ミニ展示「映画俳優 三國連太郎 生誕100年、没後10年」	3
所蔵資料紹介 -[4]第五期歌舞伎座資料-	3
『歌舞伎 特選 DVDコレクション』追加刊行 & 当館コラム継続決定!	4
新着資料案内	4
新規登録資料案内	4
資料提供	5
公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い	5
松竹大谷図書館 ご来館予約のお願い	5
利用案内	6

■神奈川近代文学館特別展「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」に当館資料を展示提供しています

現在、神奈川近代文学館で開催中の特別展「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」は、日本を代表する映画監督のひとり・小津安二郎（1903～1963）の生涯とともに小津映画の変遷を辿り、茅ヶ崎市や鎌倉市など、小津監督にゆかりの深い神奈川県に残した小津の足跡にも焦点を当てた展覧会です。当館からは、小津安二郎作品『お茶漬の味』、『秋日和』のスクラップブックを出展しています。

この度、内覧会に参加いたしましたので、展覧会の見どころをご紹介します。



神奈川近代文学館外観

小津の生誕120年、没後60年という記念すべき展覧会ということもあり、大規模な展覧会となっており、全国の資料館や研究者の方から集めた展示資料の数は約500点と圧巻です。

展示室は大きく3つの展示室から成り、はじめに幼少期から青年期の写真や手紙、小津少年が描いた地図など、小津が映画の世界へ入るまでの資料が並びます。次の松竹キネマ蒲田撮影所入所初期の資料や監督用台本が並ぶコーナーでは、監督デビュー作の『懺悔の刃』以降それぞれの作品を掲載した封切館の映画館ニュースが並び、これだけの資料が揃っている事と資料の状態の良さに驚かされます。また、戦中・戦後の代表作の創作過程がわかる絵コンテや監督用台本なども展示されています。作品ごとに資料がまとめられており、当館所蔵スクラップブックは『お茶漬の味』と『秋日和』のコーナーにそれぞれ展示されていますので、どうぞ注目してご覧ください。



3月15日に行われたスクラップブック搬出の様子

なお、小津の日記やグルメ手帳などファンにはよく知られた遺品の原物も展示されていますが、とてもコンパクトな手帳に細かい字で書かれているので、ぜひオペラグラスを持っていき、空いている時間にじっくりと観覧される事をお勧めします。

さてこの展覧会では、小津の世界観を体感できるような様々な趣向が凝らされています。エントランスホールには飲み屋街のパネルの前に「燕来軒」と「とんかつ」と書かれた行燈看板が設置され、一気に小津映画の世界に入り込んだような雰囲気になります。セットの手前にはローテーブルの上にカメラやスマートフォンを設置するためのアクリルの台が置かれ、小津監督のローアングルが体験出来ます。大型ディスプレイでは『彼岸花』『お早よう』『秋日和』『秋刀魚の味』の予告編も観ることができ、ここで映像を観てから展示を周ると、予告編に出てきた湯飲みにも目がいくなど、細やかな仕掛けが施され、小津の世界を存分に楽しめるようなつくりとなっています。



ローアングルでの撮影を体験中

海外でも評価が高い小津作品ですが、展示会場に入ると、まず映画監督が選ぶ史上最高の映画として、2012年に『東京物語』が第1位に輝いた時の英国映画協会発行の雑誌「Sight & Sound」が展示してあり、反対側の壁にはポップな雰囲気の小津作品の海外向けポスターが目に入ります。見慣れた小津作品のタイトルも、海外向けのデザインだと違う映画のように感じました。

ぜひこの機会に、小津映画の変遷を辿り、新たな魅力を知る展覧会へお出かけください。

予約制の講演や上映会、また会期中毎週金曜日には申し込み不要（要展示観覧料）のスライドトーク（職員の方による展示説明）なども開催されます。詳しい情報はHPでお確かめください。

▼神奈川近代文学館HP 特別展「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」

<https://www.kanabun.or.jp/exhibition/17721/>

▼松竹シネマクラシック 神奈川近代文学館 特別展「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」

<https://www.cinemaclassics.jp/news/3178/>

■開催情報■

特別展「生誕120年 没後60年 小津安二郎展」

会場：神奈川近代文学館第2・3展示室

会期：2023年4月1日（土）～5月28日（日）

休館日：月曜日（5月1日は開館）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）

■第96回所蔵資料ミニ展示「映画俳優 三國連太郎 生誕100年、没後10年」

展示期間:2023/3/16-4/26 於閲覧室

現在、当館閲覧室では、4月26日までミニ展示「映画俳優 三國連太郎 生誕100年、没後10年」を開催中です。

1951年のデビューから没年の2012年の前年まで、長く映画界で活躍した三國連太郎。当館所蔵の関連資料から、計21点を選び、展示しています。デビュー作『善魔』をはじめとした初期の松竹時代のプレスシートやスチール写真、『釣りバカ日誌』シリーズのスチール写真とプログラム、監督デビュー作でカンヌ国際映画祭審査員賞を受賞した『親鸞 白い道』の台本と関連著書、千利休役を格調高く演じた『利休』のB全ポスター、山田洋次監督の名作『息子』のロビーカード、息子の佐藤浩市と共演した『美味しんぼ』プログラム等を展示しています。

また、多くはありませんが三國連太郎は舞台にも出演しています。1967年1月東京宝塚劇場上演の『明治百年』で初舞台を踏み、映画で培った演技力を披露しました。1988年1月サンシャイン劇場上演のイギリス演劇『ドレッサー』では主役の「リア王」を演じる座長役で出演し、翌年の再演でも同役をつとめました。今回の展示では、1988年の『ドレッサー』のスチール写真を展示しています。

そして展示ケース横には、お手に取ってお読みになれるよう、『釣りバカ日誌9』シリーズ10作記念特別プログラム、『シナリオ』1969年3月号(『神々の深き欲望』シナリオ掲載)、インタビューや特集が掲載された『キネマ旬報』など、計6点の閲覧用資料をご用意しています。現在、閲覧席と所蔵資料のご利用は前日までのご予約となっておりますが、展示はご予約無しでご覧いただけますのでご興味おありの方はご来館ください。

■展示資料一覧■[スチール写真,プレスシート]『善魔』1951年[スチール写真]『海の花火』1951年/『命美わし』1951年/『稲妻草紙』1951年/『本日休診』1952年/『戦国無頼』1952年/『夜の鼓』1958年/『狼と豚と人間』1964年/『怪談』1964年/『にっぽん泥棒物語』1965年/『螢川』1987年/『釣りバカ日誌』1988年/『夏の庭 The Friends』1994年[台本]『飢餓海峡』1964年/『親鸞 白い道』1987年[図書]『親鸞に至る道』1987年2月光文社発行,三國連太郎著[ポスター]『利休』1989年[ロビーカード]『息子』1991年[プログラム]『ひかりごけ』1992年/『美味しんぼ』1996年/『釣りバカ日誌20 ファイナル』2009年[演劇スチール写真]『ドレッサー』1988年1月サンシャイン劇場上演

《展示関連資料》

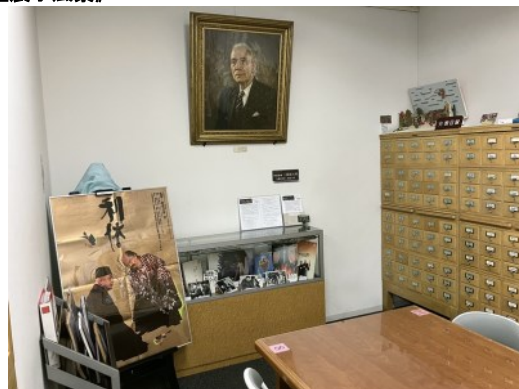


映画デビュー作『善魔』資料
左よりプレスシート、
スクラップブック、台本



右『ドレッサー』サンシャイン劇場プログラム
下:1988年1月上演 上:1988年11-12月上演
左:初舞台作品『明治百年』
1967年1月東京宝塚劇場プログラム

《閲覧室展示風景》



閲覧室ミニ展示「映画俳優 三國連太郎 生誕100年、没後10年」
展示期間:2023年3/16(木)~4/26(水)/時間:平日10時~17時/休館日:土日祝日、毎月最終木曜日/展示場所:松竹大谷図書館 閲覧室 ※現在、展示は予約なしでご覧いただけます。松竹大谷図書館 TEL 03-5550-1694(平日:10時より17時) <https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

■所蔵資料紹介 —[4]第五期歌舞伎座資料—

松竹大谷図書館の所蔵資料を写真と共にご紹介するコーナー。今回は、今月4月に新開場10周年を迎えた「第五期歌舞伎座」の資料です。2013年4月2日、平成の時代に新装なった第五期歌舞伎座。関連の書籍や雑誌も多く出版されました。当館も新開場記念図書から、その建築に焦点を当てた雑誌などを所蔵しています。10年を経た今、改めてお読みになってみてはいかがでしょうか。

当館閲覧室で閲覧可能ですので、ご希望の方は閲覧席をご予約ください(※前日までの予約制)。当館HPの「資料検索」で検索できます。

<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

上左:雑誌『匠の技 歌舞伎座をつくる』1-9号(2010-2013年)、図書『匠の技 歌舞伎座をつくる』(2014年,雑誌1-9号を単行本化)

下左より:『新開場記念 歌舞伎座』(2017年,贈答用非売品,一般販売用)、『新開場 歌舞伎座』(2013年,『新開場記念 歌舞伎座』より一部を抜粋抄録) / 上右より:『歌舞伎座ビル』(2011年)、『しみずまんすりー』Vol.816「特集 GINZA KABUKIZAが完成」 / 中右より:『東京人』2013年5月号「特集 いざ、歌舞伎へ」、『新建築』2013年7月臨時増刊「五代目歌舞伎座の建築」



■『歌舞伎 特選 DVDコレクション』追加刊行&当館コラム継続決定！

2019年8月の発売開始以来、毎奇数号で当館がコラムを連載している『歌舞伎 特選 DVDコレクション』（アセット・コレクションズ・ジャパン株式会社）は当初第100号までの刊行予定でしたが、この度、好評につき第150号までの追加刊行が決定しました。

当館が担当する連載コラム(奇数号掲載)「松竹大谷図書館名品展」も引き続き150号まで掲載されますので、ぜひご覧ください。

隔週刊『歌舞伎 特選 DVDコレクション』は、舞台映像を収録したDVD付きのマガジンで、現在、第95号まで刊行されています。当館コラムの「松竹大谷図書館名品展」では、当館の所蔵資料より、歌舞伎関連の貴重な資料を写真付きでご紹介しております。最新号の第95号の当館コラムでは、当館所蔵資料『歌舞伎双六』をご紹介します。

『歌舞伎双六』は、昭和26(1951)年1月の第四期歌舞伎座新開場を記念して発行された絵双六です。芝居の絵看板を担当する鳥居派の鳥居忠雅や日本画家の鴨下晁湖、漫画家の宮尾しげをなど、日本劇画院の10人の画家たちがそれぞれ歌舞伎の登場

人物などを描いています。役者絵の版画で知られた名取春信が、『二條城の清正』で初代中村吉右衛門の似顔絵を描いているのは江戸時代の歌舞伎絵双六で俳優の似顔絵が多く描かれていたのを思わせます。

今後の刊行も、どうぞお楽しみに！



歌舞伎座・松坂屋発行 5.3×7.25
歌舞伎双六(昭和25(1950)年)

新着資料案内 (ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします)

新しく受入れた資料をご案内いたします

◆松竹系3月演劇公演資料		○…受入済み			
劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『花の御所始末』	○	○		
	『仮名手本忠臣蔵 十段目 天川屋義平内の場』	○	○		
	『新古演劇十種の内 身替座禅』	○	○	○	○
	『髑髏尼』	○	○		
	『夕霧伊左衛門 廓文章 吉田屋』	○	○		
新橋演舞場	青春POP ROCK『ルーザーヴィル』			○	
	『舟木一夫 シアターコンサート in 新橋演舞場』				○
サンシャイン劇場	『歌うシャイロック』	○		○	
南座	解説<仮名手本忠臣蔵のいろは>				
	『仮名手本忠臣蔵 五段目・六段目』	○		○	○
	『忠臣いろは絵姿』	○			
松竹座	『東西ジャニーズ Jr. Spring Paradise』				○
地方巡業	『再春松種蒔 舌出三番叟』				
	『十三代目市川團十郎白猿襲名披露口上』			○	
	『歌舞伎十八番の内 勸進帳』				

◆映画資料 『パリタクシー』プログラム

◆映画プログラム (順不同) 『シャザム! 神々の怒り』『映画 ネメシス 黄金螺旋の謎』『ピンク・クラウド』『仕掛人・藤枝梅安』『映画 刀剣乱舞 黎明』『グリッドマン ユニバース』『シング・フォー・ミー、ライル』『生きる LIVING』『The Son 息子』『長ぐつをはいたネコと9つの命』『わたしの幸せな結婚』『映画ドラえもん のび太と空の理想郷(ユートピア)』『フェアブルマンズ』『Winny』『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』『劇場総集編 SSSS. DYNAZENON』『オットーという男』『AIR エア』

◆演劇雑誌 (順不同) 『AAC』Vol. 115/ 『Bandaly』22号/ 『Bunkamura magazine』No. 210/ 『Confetti』2023年 April/ 『KENSYO』Vol. 128/ 『SePT倶楽部 information』2023年2月号, 3月号/ 『あぜくら』2023年3月号/ 『えんぶ』2023年4月号/ 『ほうおう』2023年5月号/ 『ステージぴあ』2023年3+4月号/ 『テアトロ』2023年4月号/ 『ミュージカル』2023年3月-4月号/ 『ヨーロッパ通信』18号, 19号/ 『ラ・アルプ』2023年4月号/ 『喝采』2023年6月, 7月/ 『芸劇BUZZ』Vol. 43/ 『劇評』第12号/ 『国立演芸場公演ガイド』令和5年4月号/ 『青年劇場通信』23号/ 『大向う』令和5年4月号/ 『日本芸術文化振興会ニュース』2023年4月号/ 『日本照明家協会誌』2023年3月号/ 『日本舞踊』75巻4月号/ 『文化座』197号/ 『名古屋芸能文化』32号

◆映画雑誌 (順不同) 『SCREEN』2023年5月号『TVガイド』2023年3/17号, 3/24号, 3/31号, 3/10号, 4/7号/ 『おとなのデジタルTVナビ』2023年5月号/ 『キネマ旬報』2023年4月上旬号, 4月下旬特別号/ 『シナリオ』2023年5月号/ 『シナリオ教室』2023年4月号/ 『ドラマ』2023年4月号/ 『ムービー・スター』2023年5月号/ 『ロケーションジャパン』2023年4月号/ 『映画テレビ技術』2023年3月号, 4月号/ 『映画撮影』No. 234/ 『映画時報』2023年3月号/ 『映画論叢』62号/ 『松竹[社報]』234号/ 『日経エンタテインメント!』2023年4月号/ 『日本アカデミー賞協会会報』92号/ 『文化通信ジャーナル』2023年4月号/ 『立教映像身体学研究』10号

◆他社演劇公演資料 (2023年1月-3月) (順不同) 文学座『挿話』文学座アトリエ台本/ 『CLUB SEVEN 20th Anniversary』シアタークリエイティブプログラム/ 猿之助と愉快な仲間たち『ナミダドロップス』神田明神ホールプログラム/ 名取事務所『占領の囚人たち』下北沢「劇」小劇場プログラム/ 台本/ 彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』埼玉会館大ホールプログラム/ 劇団四季ミュージカル『ジョン万次郎の夢』自由劇場(四季) プログラム/ 『第60回声明公演』国立劇場大劇場プログラム/ 『第331回歌舞伎公演』国立劇場大劇場プログラム/ 『第204回邦楽公演』国立劇場小劇場プログラム/ 『第140回民俗芸能公演』国立劇場小劇場プログラム/ 『第205回邦楽公演』国立劇場小劇場プログラム/ 『第223回文楽公演』国立劇場小劇場プログラム

新規登録資料案内 (順不同)

新しく受入れた資料をご案内いたします

『伝統芸能伝承者養成事業概要 令和2年版度(2020年)』『おしごと年鑑2018(抜粋)』『演文庫戯単図録 中国芝居番付コレクション』『見世物資料図録 国立劇場所蔵』『特別展 巨星・松本清張』『芝居ばなし 第二編』『鶴屋南北未刊作品集 第一巻 勝俣蔵篇』『鶴屋南北未刊作品集 第二巻 鶴屋南北篇』『鶴屋南北』『歌舞伎からみるお江の時代 長

浜市曳山博物館・開館一〇周年特別企画展』『百姿繚乱 嵐圭史舞台生活70年 煌めきの役々・舞台写真集』『尾上辰之助写真集』『第33回東京国際映画祭公式記録 [2020年]』『神戸映画資料館所蔵映画館プログラムのデジタル化・カタログ化』『戦後時代劇史 甦る名優たち 東映編』『OZU×36=L' integrale』

資料提供 (2023年2月～3月)

※許可を得た方のみ掲載しております

[展示]「西村公一文庫紹介展」近松半二の浄瑠璃本 全署名62作品と存疑作を辿る 第二期」2023年1月4日～3月24日京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 浄瑠璃正本『源氏物語 葵の巻』を提供／令和4年度文化庁委託事業アーカイブ中核拠点形成モデル事業展示「映画はいかにしてつくられ、そして楽しまれてきたか 最新調査で発見された映画資料展」2023年2月11日～19日調布市文化会館たづくり2階北ギャラリー 映画台本14点を提供

[出版]鈴木彩『泉鏡花の演劇 小説と戯曲が交差するところ』2023年1月20日花鳥社 新富座辻番付を提供／『歌舞伎特選DVDコレクション第91号』2023年2月8日アシェット・コレクションズ・ジャパン マガジンの連載「松竹大谷図書館名品展」に「大近松全集録木版画」を提供／『歌舞伎特選DVDコレクション第93号』2023年3月8日アシェット・コレクションズ・ジャパン マガジンの連載「松竹大谷図書館名品展」に図書『小道具藤浪與兵衛』を提供

[プログラム掲載]「三月大歌舞伎」2023年3月歌舞伎座 歌舞伎座絵本役割と辻番付を提供

[その他]2022年度第62回茅ヶ崎市民文化祭 市民劇団湘南座 放送劇「萬松園の秋」2023年2月よりオンライン公開 『川上音二郎・貞奴一座欧米公演関係資料アルバム』を提供／早稲田大学公開オンライン講座WasedaX「Uncovering the Voices of Japanese Literature」2023年3月より6回開講 オープンソース教育プラットフォームedX講座ビデオに辻番付『祇園祭礼信仰記』『本朝廿四孝』を提供

公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■現在ご支援いただいている方々(了承を得た方のみ掲載)令和5[2023]年3月にご支援いただきました

法人・団体 (50音順・敬称略)

株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
有限会社合同通信社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
松竹ブロードキャスティング株式会社
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

松竹大谷図書館 ご来館予約のお願い

開館日時やご利用方法につきましては、状況の変化にともない変更の可能性がございます。

随時お電話でのご確認や、当館のHP、Facebookの更新をご確認下さい。ご理解ご協力の程、よろしくご申し上げます。

当館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来館は「前日までの予約制」とさせていただきます。

《現在のご利用について》(※2023年3月10日改定)

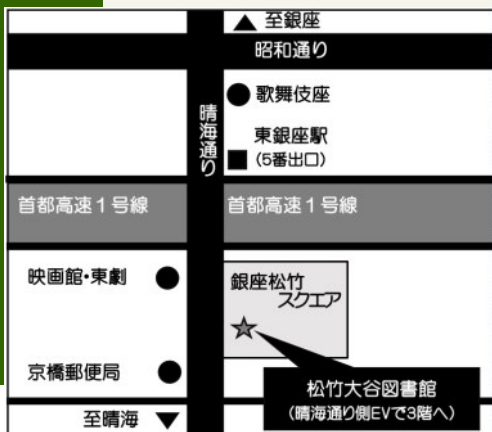
- 開館時間 10:00～17:00
- ご来館前日(※休館日を除く)までに、お電話でのご予約をお願い致します。
当日のご利用は、閲覧席に空きがある場合のみ承ります。
松竹大谷図書館 03(5550)1694(平日10時～17時)
- 展示はご予約なしでご覧頂けます。状況によっては、入室をお待ち頂く場合がございます。
- ご利用の際はマスクの着用と手指の消毒のご協力をお願い致します。

《ご予約について》

- ★10時から17時まで、毎正時より1時間単位でのご予約制になります。
- ★お名前、人数、ご希望日時(○月○日○時より○時まで)、閲覧希望資料名、ご連絡先をお知らせ下さい。
- ★ご同伴者はお一人までで、出来るだけお一人での来館をお願い致します。
- ★資料は予約優先になりますので、ご利用頂けない場合もございます。

松竹大谷図書館資料検索：<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

詳しいご利用方法はこちら：<https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/news/220606.html>



- 利用案内●[開館時間]平日10:00～17:00/[休館日]土曜日、日曜日、祝日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期整理期間※その他、臨時休館のある場合は1ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します/[閲覧]館内閲覧のみ
- [入館料]無料/[コピーサービス] A4 1枚 白黒50円、カラー150円・B4 1枚 白黒100円、カラー300円 量が多い場合は翌開館日渡し、または郵送(送料は申込者負担) 但し、コピー不可の資料もあります
- 資料検索●<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>
- 交通案内●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分/東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分



編集・発行:公益財団法人 松竹大谷図書館
〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階
TEL:03-5550-1694
公式HP● <https://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>
公式Facebook● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>